

2017.12.24 待降節第四主日

レット・イット・ビー、み心が成りますように

ルカによる福音 1:26-38

(そのとき、) 天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。天使は、彼女のところに来て言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。すると、天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」マリアは天使に言った。「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知らないのに。」天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になっている。神にできないことは何一つない。」マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」そこで、天使は去って行った。

説教

イエスの誕生の予告「受胎告知」が今日（クリスマスイブ）の聖書箇所です。ルカ福音はこの事情を詳しく伝えてくれます。

婚約中のマリアのところに天使ガブリエルが遣わされて神の子イエスを受胎すると告げます。マリアはとまどいこう答えました。

マリアは天使に言った。どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知らないのに。ルカ1：34

しかし、ガブリエルはマリアの訴えに耳をかさしません。

神にできないことは何一つない。ルカ 1 : 37

さいどマリアはこう答えます。

マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に**成りますように。**」そこで、天使は去って行った。(新共同訳ルカ 1 : 38)

Then Mary said, "Behold the maidservant of the Lord! Let it be to me according to your word." And the angel departed from her. (New King James Version)

マリアさまの受胎告知の返事はレット・イット・ビー でした。日本での「レット・イット・ビー」は、「気ままに生きてればどうにかなるさ」という意味として使われているように思います。少なくとも「神のみ旨のままになりますように」という意味では理解されていませんでした。

When I find myself in times of trouble	私が悩み苦しんでいるとき
Mother Mary comes to me	聖母マリアが私のもとを訪れ
Speaking words of wisdom	叡智の言葉を話してくれる
Let it be	「神のみ旨のままになりますように」

And in my hour of darkness	わたしが闇に包まれるとき
She is standing right in front of me	聖母マリアが私のすぐ目の前に立ち
Speaking words of wisdom	叡智の言葉を話してくれる
Let it be	「神のみ旨のままになりますように」

このビートルズの「レット・イット・ビー」はマリアさまの祈りの心が私たちにも伝わるような言葉で歌われてます。日本には、キリスト教的なバックグラウンドがないものですから、人々に口ずさまれたこの歌の真意がうまく伝わっていません。マリアさまの受胎告知の返事が題名となっているこの歌は多くの不幸な出来事を前にして落ち込んだり苦しんだりしている人にとって、励まし、支えとなった歌です。Let it be これは祈りをとおして前向きに人生を生きる人を支える言葉、知恵のことばです。わたしたちの教会は礼拝のなかでミサ曲を歌っています。「レット・イット・ビー」を上手に日本語

に訳せたら礼拝のなかの讃美歌としてとりいれたいと考えています。よいクリスマスを迎えることができますように。
